

令和2年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- | | |
|-----|------------------------------------|
| I | スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び |
| II | マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成 |
| III | スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築 |
| IV | 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成 |
| V | スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成 |

道府県・政令市名【 京都市 】

1 実践テーマ	【 Ⅲ 】
2 実施対象者	京都市立太秦中学校 第1学年（6クラス・195名）
3 展開の形式	（1）学校における活動 ① 教科名（ 総合 ） ② 行事名（ ） ③ その他（ ） （2）地域における活動 ① イベント名（ ） ② その他（ ）
4 目標 （ねらい）	「障がいのある人とない人が共生する社会をつくるために 自分にできることを考える」
5 取組内容	① 事前学習（パラリンピックについて） （パラリンピックダイジェスト，パラ陸上映像視聴） ② ガイドランナー体験（体育の授業で各クラス1時間実施） 〈ガイドランナーについて説明を聞いているようす〉 

〈ガイドランナーを体験をしているようす〉



〈ふりかえりを書いているようす〉



③ 車いすバスケットボール選手による講演会（２時間）
（元パラリンピック日本代表コーチ１名と選手２名による
講演と選手による実演）



④ 事後学習（１時間）
（ガイドランナー体験、車いすバスケットボール選手による講演会で
学んだことをふり返り、「障がいのある人となない人が共生する社会
をつくるために自分にできることは何か？」を個人やグループで考
えた。）

6 主な成果	《生徒の感想より》 ・「お手伝いしましょうか？」など、相手が頼みやすいような声掛けをしようと思いました。 ・介助する側とされる側で、コミュニケーションをとることが大切だとわかりました。 ・障害によって困っていることがちがうので、どのように接するかをしっかりと考えようと思います。 ・相手の立場になって考えて、行動しようと思いました。 ・障害のある人もない人もスポーツを通して、喜びや悲しみもともに感じることは素晴らしいと思いました。 ○今回の学習を通して、障害のある人となない人が共生していこうとする態度が培われたように感じた。
7実践において工夫した点 (事業の特色)	元パラリンピック日本代表コーチがおられたこと、車いすバスケットボールチームがあったこと。
8主な課題等	特にありません
9来年度以降 の実施予定	今年度は、ガイドランナー体験と車いすバスケットボールの講演・実演だったが、来年度は、車いす体験を取り入れる予定です。